



[熊本県川辺川](#)
[長崎県諫早湾・有明海](#)
[沖縄島・東海岸](#)
[2002年度決算・2003年度
 予算](#)

2002年度のあなたのご寄付でこんなことが解明できました。

from kawabe river 熊本県川辺川

アユを育てる川とダムのある川の差がここまでわかりました

ダム建設が計画されている熊本県の川辺川で、2000年から行なっているアユとその生息環境の調査で、NACS-Jはダムのある本流の球磨川に比べて川辺川のアユは体格も大きく、生息環境もすぐれていることを明らかにしました。



2002年は、川の石に付着した藻類とアユの胃の内容物から、川辺川のアユがよい香りのもととなる珪藻を食べているのに対して、本流のアユはダムの下流に多いといわれる藍藻を主に食べていることがわかりました。

また市房ダム、竜門ダムなど、球磨川周辺のダムの水質や底質を市民参加で調査し、底泥には重金属が堆積していること、ダムから流れ出す水は濁りが多く、水温も低いということを明らかにしました。球磨川が注ぐ八代海の調査では、既存のダムのために球磨川からの土砂供給が減少していることもわかりました。

調査結果は、2003年2月からの県民討論集会における国土交通省との討論など役立てられています。NACS-J自然保護寄付に寄せられたご寄付は、調査用具の購入や調査員の派遣に効果的に活用されました。

球磨川（本流）

川辺川



ダムの底泥には、重金属が堆積している。ダムから流れ出す水は濁りが多く、水温も低い。本流のアユは藍藻を食べている。



川辺川のアユはよりよい香りのもととなる珪藻を食べ、体格も大きい。

from ariake-isahaya 長崎県諫早湾・有明海

「ありあけ大調査」で潮受け堤防の環境影響がさらにわかりました

2001年のノリ不作によって大きな社会問題となった諫早干拓事業。NACS-Jは、昨年度、諫早湾の潮受け堤防の外側の、大規模な貧酸素水塊の発生を明らかにしました。

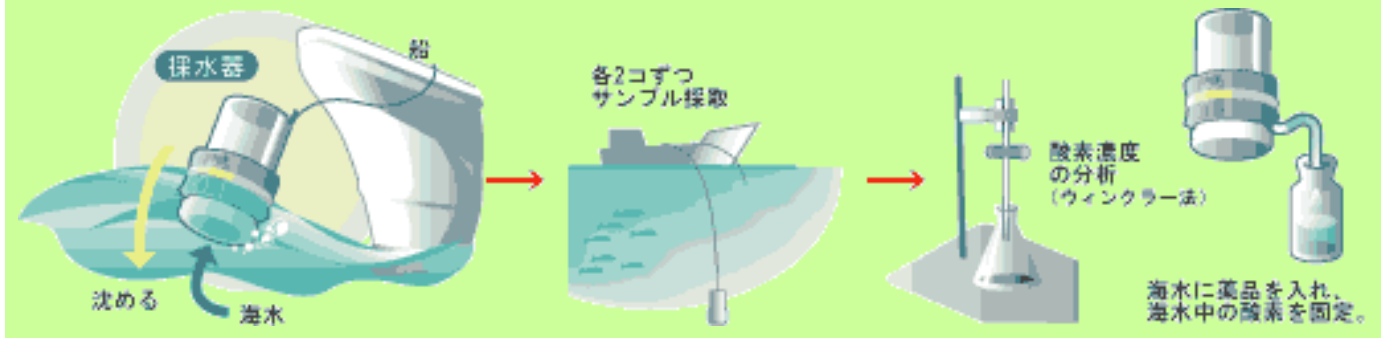


2002年は、有明海をとりまく四県の漁師さんが、毎月船を出して、貧酸素水塊の発生をとらえる「ありあけ大調査」を行ないました。潮受け堤防の建設が有明海全体の潮汐や、潮流を減少させ、干潟の浄化能力が失われたり、また潮受け堤防内の調整池にたまった栄養塩が堤防外に流れ出し、プランクトンを発生させたり、泥を堆積させ、有明海全体の環境が悪化したことがわかりました。この調査結果を近く報告書にまとめる予定です。

また、諫早湾干拓事業が有明海全体に与えた影響をわかりやすく紹介したビデオが、今年四月に完成しました。この調査には、NACS-J自然保護寄付に寄せられた寄付金のほか、自然保護助成基金、WWF日興グリーンインベスターズファンドの助成金も活用されました。

「ありあけ大調査」説明会

調査のための採水の仕方や調査薬の使い方などを覚えていただく説明会が開かれました。



from okinawa 沖縄島・東海岸

ジュゴンがくらす藻場を調べる沖縄ジャングサウォッチで海草群落の分布がわかりました

米軍の普天間飛行場移転が計画されている名護市東海岸において、NACS-Jは2002年にジュゴンの餌でもある海草(沖縄の言葉でジャングサ)を市民が調査する「沖縄ジャングサウォッチ」を行ないました。飛行場移転が計画されている辺野古サンゴ礁のイノー(礁池)には、沖縄島最大の海草藻場が広がり、ジュゴンやウミガメがこの海草を食べてくらししています。



七種類の海草を識別して種ごとに分布を調べたところ、ジュゴンが好むウミヒルモなどの海草は、イノーの中の比較的深い場所に、密度の低い群落をつくっていることがわかりました。飛行場を建設する防衛施設庁は、飛行場は密度の高い海草藻場を避けて建設するとしていますが、ジュゴンが好む密度の低い海草群落は埋め立てられてしまうこととなります。

この結果を英訳し、ラムズフェルド国防長官など、米国政府にも送付しました。この調査は、NACS-J自然保護寄付によせられた寄付金のほか、自然保護助成基金からの助成金で行なわれました。



海草(うみくさ)は、海藻(かいそう)とは別の、海に適応した種子植物。

辺野古の海草の分布と空港予定地

普天間基地移設が計画されている辺野古では、航空写真で読み取れる範囲よりもっと広く海草が分布していることがわかりました。空港予定地はジュゴンの好む海草の群落地にかかってしまうことがわかりました。

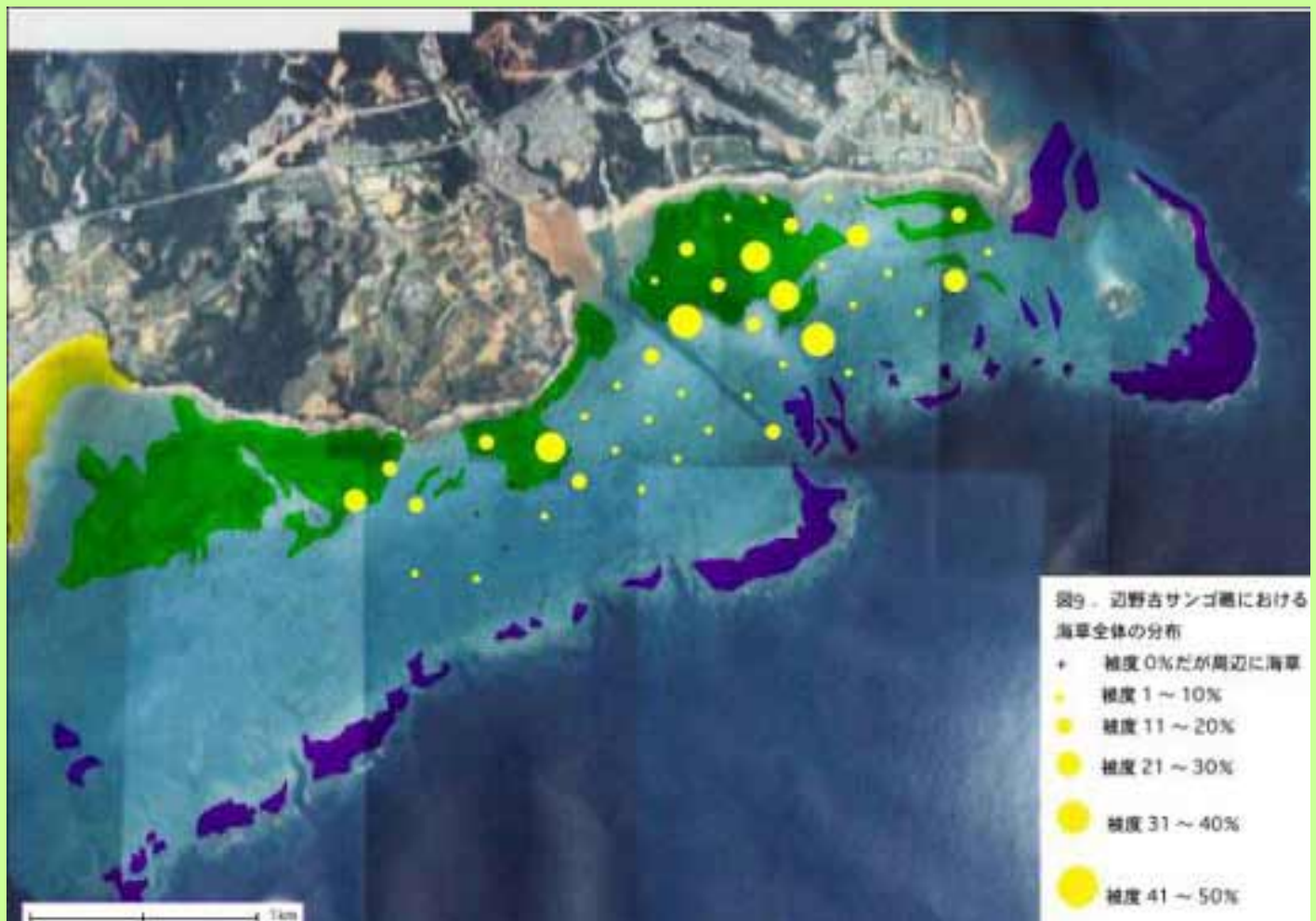




図 22. 辺野古サンゴ礁のクチと空港計画

2002年度決算・2003年度予算

資金はこのように役立てています

2002年度決算 2002年4月1日～2003年3月31日	
収入 2億5373万円	支出 2億6458万円
基本財産の運用利子等/ 325万円 会員の方々からのご支援/ 1億194万円 ご寄付によるご支援/ 3600万円 セミナーの受講、資料やグッズのご購入/ 4130万円 調査・研究等の受託/ 2455万円 他機関からの資金助成/ 880万円 積立預金の充当等/ 3789万円	自然を守る/ 3889万円 自然をしらべる/ 4553万円 自然保護の意義をひろめる/ 4255万円 自然保護の現状をつたえる/ 3850万円 支援してくださる仲間をふやす/ 2016万 円 NACS-Jの50年を記録する/ 1668万円 組織を運営する/ 6227万円

2003年度予算 2003年4月1日～2004年3月31日
(Empty space for budget details)

収入 2億5117万円	支出 2億5117万円
基本財産の運用利子等/ 130万円 会員の方々からのご支援/ 1億80万円 ご寄付によるご支援/ 4025万円 セミナーの受講、資料やグッズのご購入/ 4729万円 調査・研究等の受託/ 1630万円 他機関からの資金助成/ 1923万円 積立預金の充当等/ 2600万円	総合的な地域環境保全のモデルをつくる/ 2000万円 開発を止める/ 2985万円 自然をしらべる/ 4919万円 環境教育をすすめる/ 3719万円 自然保護の現状をつたえる/ 3138万円 支援してくださる方々をふやす/ 2641万 円 組織を運営する/ 5715万円支出

(2003年度事業計画・予算 / 2003年3月25日理事会議決、2002年度事業報告・決算 / 2003年5月28日理事会議決。なお、固定財産の預け替えや特定預金の積立により生じる収支を除く。)

Copyright(c)2004 THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN, All rights reserved.